

公述人のご意見の写し

「別紙のとおり」

(1)

P23 2.5 河川維持管理の現状と課題

河川の1番重要なことは平常時の流水の確保である。

浅川については、ここ30～40年間で驚くほど流水が減少している。よって長期スパンで浅川の流水の確保の対策を講じる必要がある。

主な理由

- ・地球温暖化の影響等で雨水と湧水が減少している。
- ・浅川の13本の源流にある水源林が管理の行き届かない針葉樹林に覆われている事。
(広葉樹林帯への変更が必要)
- ・コンクリート護岸により、堤内地の湧水が遮断してきた。(ワンドの消滅)
- ・北野の処理場の排水が多摩川流域の処理場に編入され、浅川への排水が無くなった。

(2)

P37、2) 河道掘削

京浜河川事務所では、平成の初め頃から、浅川が多摩川との合流点より河道掘削を初めてきた。

(日野市や市民団体等には、河道掘削はしていないと言い続けてきたが・・・)

日野市の用水の歴史

日野市では、多摩川から取水する日野用水は永禄10年(1567年)に開削されたと言い伝えられており、

浅川からの9ヶ所(現在5ヶ所)の各用水を慣行水利権で取水され東京の米倉と呼ばれるような水田のまちでした。

いまだに市内を110kmに及ぶ用水が流れ国土庁から「水の郷日野」に選定を受けている。

問題点

長年の河道掘削により、4ヶ所の取水堰からの取水が困難となっている。

原因は河道掘削にあり、残りの5ヶ所についても時間の問題であり、取水堰の改修についても整備計画に入れて欲しい。